

地方経済情報 Weekly No. 231

ICTスキルは「推奨」から「必須」へ

～Society5.0で成長できる企業となるために～

1. ICT導入が進まない日本企業

我が国の企業でのICT導入状況は低調な状況にあります。総務省の調査によると、例えば、ICTに含まれるAI・IoT等の技術を使ったシステム・サービスについては、63.2%の企業が「導入していない」と回答しています(図表1)。

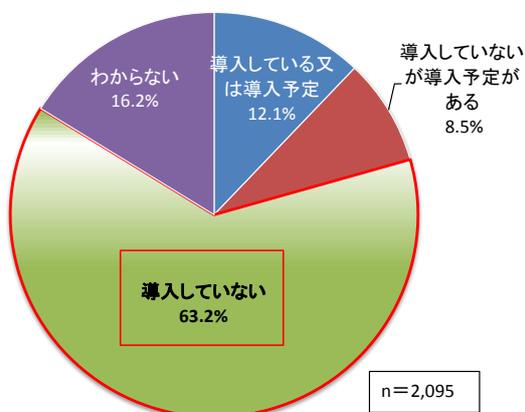
2. ICT導入が進まない背景は「ICT人材不足」「ICTに対する理解不足」

同調査によると、ICT等のシステム・サービスを導入しない理由は「使いこなす人材がいなから」が37.9%と最も高く、ICT人材が不足していることがうかがえます(図表2)。また、「導入後のビジネスモデルが不明確だから」や「導入すべきシステムやサービスが分からないから」という回答も約3割を占めています。このように、経営者や従業員がICT導入後の自社像を画けていない、という背景もあると考えられます。

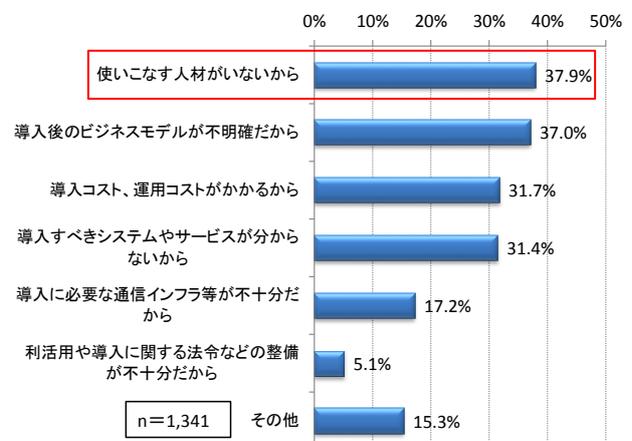
3. 各自がICTを学び、組織の生産性を底上げしていくことが必要

経済産業省の試算によると、2030年には我が国のICT人材は45万人不足すると見込まれています。このため、国が「Reskill」といった教育訓練給付の対象となる研修を多数用意しており、eラーニングでも受講可能となっています。ICTは全てを解決する「魔法の杖」ではありません。しかし、不可逆的に進展するICTを身に付けることは、企業の生産性の底上げには必要不可欠であると言えます。国が提唱する「Society5.0」では、ICTによって必要な情報が必要なときに提供され、新たな価値を生み出す社会を目指しています。そのような社会で成長できる企業となるために、各自がICTを学び、組織の生産性向上に寄与していくことが必要になると考えられます。

[図表1] AI・IoT等のシステム・サービスの導入状況



[図表2] ICT等のシステム・サービスを導入しない理由



(図表1・図表2)資料:総務省「令和元年度版 情報通信白書」2019年7月

担当: 研究員 嶋田